KOKUGAKUIN UNIVERSITY 140th

渋谷で学ぶ、神職を目指す

國學院大學 神職子女向け案内

神道文化学部

第１回 古事記アートコンテスト 神道文化学部生受賞作

古事記アートコンテストは、文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に選定された「『古事記学』の推進拠点形成」の成果の一環です。なお、学年は受賞時のものです。

【特選】「古事記との出会い」新井麻美（神道文化学部１年）

もっと日本を。もっと世界へ。

KOKUGAKUIN Univ. 國學院大學

フレックス A(夜間主入学)のすすめ(1)

給付型奨学金が充実した フレックス A(夜間主)で学びを深めました

七五三詣りでいただいた『あまのいわと』の絵本が、日本神話との出会いでした。中学高校と進むごとに神話への関心が強まり、大学受験では、古事記について深く学べる國學院大學を志望しました。

入学して驚いたのは、日本文化・宗教文化に関する科目の選択肢がたいへん豊富なことです。時間割を工夫して、神職課程・博物館学の資格課程、さらに考古学や世界の宗教についても学びを広げ、３年次には宗教文化士の資格にもチャレンジしました。

なかでも刺激的だったのは、武田先生の「古典講読Ⅰ」の授業で『古事記』の語り部を体験したことです。自分の言葉で神話を語り伝えることの面白さに気づきました。３年次からの武田ゼミでは倭建命について研究を重ねました。先生の御助言をいただきながら『古事記』を読み込み、思索を重ねた２年間は、本当に充実した日々でした。

遠距離通学のために夜間主を選んだ私ですが、在学中経済的な問題に直面した際、特例給費奨学金のほかフレックス奨学金や成績優秀者奨学金など、國學院大學独自の充実した給付奨学金制度に救われて学業を継続することができました。さらに有難いことに、卒業後は生まれ育った地元の氏神様にご奉仕させていただけることが内定いたしました。皆様の御蔭に、感謝の思いでいっぱいです。

吉本 けいとさん

フレックス A(夜間主入学)のすすめ(2)

フレックス A(夜間主)で 神社実習生として学んでいます。

私が夜間主入学を決めた理由は、何よりも「神社実習生」として経験を積みたいと思ったからです。社家出身の私の夢は、幼い頃から神社でご奉仕することでした。神社実習生となることに迷いはありませんでした。

私の実習先は、武蔵国総社・大國魂神社で、境内の清掃、祭典や御祈願のお手伝い等々、たくさんのことを経験させていただいており、いつも幸せを感ずる日々です。神道文化学部の授業も興味深いものばかりです。友だちと一緒にいつも楽しく、限られた時間を有効に使いながら勉学に励んでいます。

松野 伽耶さん

◆國學院大學の奨学金制度

神道・宗教特別選考 新入生対象 返済不要	神職子女奨学金 1年次は全員支給 …[1年次生]自宅外通学者40万円／自宅通学者20万円支給(全員) …[2年次以上]自宅外・自宅通学者ともに年額10万円支給(学業成績の上位20名以内)
夜間主学生対象 返済不要	國學院大學フレックス特別給付奨学金……400,000円
神社界からの奨学金	■神社本庁育英奨学金…30万円支給(2年生以上) 返済不要 ※条件あり ■伏見稲荷大社奨学金…24万円支給 返済不要 ■全国敬神婦人連合会育英奨学金…15万円支給(女子学生のみ、2年生以上) 返済不要

◆國學院大學の都内実習神社

浅草神社、穴八幡宮、穴守稲荷神社、大國魂神社、大宮八幡宮、小野照崎神社、春日神社、亀戸天神社、小岩神社、子安神社、金王八幡宮、白鬚神社、世田谷八幡宮、多摩川浅間神社、千住神社、鐵砲洲稲荷神社、東京大神宮、東郷神社、根津神社、旗岡八幡神社、花園神社、日枝神社、明治神宮、靖國神社、雪ケ谷八幡神社、代々木八幡宮、六郷神社など

フレックス A(夜間主入学)のすすめ(3)

フレックス A(夜間主)に在籍したからこそ、経済的負担を軽減し、充実した4年間を過ごすことができました。

私は社家に生まれ、幼少の頃から神職を目指していました。大学受験の際も、國學院大學神道文化学部のみを受験しました。経済的な負担を減らすため、奨学金制度のあるフレックス A（夜間主）への入学を決めました。フレックス A（夜間主）を定時制のようなものと思い込み、無用の不安を抱いていましたが、いざ入学してみると、講義の時間帯以外、昼間主と何の違いもありませんでした。

入学後は、夜間主ならではのメリットを活かし、１年次から２年次まで「神社実習生」としてご奉仕させていただきました。ご奉仕を終えたのちの大学の学びによって、「実務」と「知識」の両方を、しっかりと吸収することができました。

実習生の経験は、特に装束についての興味を高めてくれました。３年次には友人たちと衣紋サークル「萌黄會」を立ち上げました。観月祭や成人加冠式などの行事で着装奉仕を担う通称“神道六部会”と呼ばれるサークルの仲間たちとの交流は、一番のよき思い出です。

夜間主に在籍したからこそ、学費や生活費での負担を軽減し、真に学生らしい充実した４年間を過ごすことができました。奉職後は、この経験をぜひとも活かしていきたいと考えています。

小野 裕徳さん

フレックスB(昼間主)学生の声(1)

学びの楽しさ、大切さを 深く知ることができました

私は神社の家に生まれましたが、ジャーナリストであった父親の影響もあり、昔から様々な事柄に興味や疑問を持っていました。神道文化学部でも、学部の先生方はもちろんのこと、他学部・他大学の先生方、都内のムスリム（イスラーム教徒）の方々のお力を借りながら、神道以外の諸宗教についても幅広く学びました。

４年間、実際に様々な場所に立ち、自分の目で様々なものを見ることを心がけてきました。そのことによって、学びの楽しさ、大切さを深く知ることができたのは、とても大きな収穫だったと感じています。

ゼミでは、ヘィヴンズ教授のもと、多文化社会や寛容性の大切さについて学びました。演習論文では「神道と寛容」という視点を切り口に、これまでに他国で行われた多文化主義政策、その日本との関わりなどを調べました。

就職活動においても「全く新しい場所に立ちたい」と考えて、これまでほとんど縁のなかった金融業界を中心に面接を受けました。

「４年次、明階総合課程を履修しながらの就職活動は前例も少なく、きっととても大変になるよ」と先生方や先輩方に御心配をいただきました。けれども、学部で就職活動中の友人たち、さらに奉職に向けて準備中の明階総合課程の仲間たちと励まし合いながら、おかげさまで目標を達成することができました。

卒業後は金融関係の会社で働くことになりますが、もちろん私のルーツは故郷の神社です。神道の精神を身に体しながら、新しいチャレンジを続けていきたいと思っています。

徳橋 唯子さん

フレックスB（昼間主）学生の声（2）

糸部 暢能さん

立派な神職を目指します

私の父は神職です。けれども父は、私に神職になることを強制しませんでした。自分の将来は、自分で決めなければなりません。高校の頃、自分なりに思いを巡らし、やはり父と同じ神職を目指すことを決意したのです。

３年次の演習では、「神道と福祉」を専門としている藤本先生のゼミに入りました。研究テーマは「神社におけるバリアフリー」。実際に神社に赴き、神職の方に直接お話を聞いたり、メジャーを持参して実地調査を行ったりしました。先生のアドバイスのもと、自分なりのフィールドワークで調査研究を深めていきました。

４年次になると、伊勢の神宮で実習がありました。神宮は、私が生まれる遥か以前から、わが国の至高の聖域です。五十鈴川での禊や夜間参拝などを通して、神職への決意を愈々堅くしました。

大学生活の４年間、たくさんの方々と出会いました。神職を志す友人たち、熱心に教えてくださる先生方…。私は本当に「ご縁」に恵まれたと思います。

これからも「ご縁」を大切にしながら、父のような立派な神職を目指して、日々精進して参りたいと願っております。

フレックスB（昼間主）学生の声（3）

幼い頃から祖父や父の姿を見てきました

私は新潟県の社家の出身です。幼い頃から神祭りに奉仕する祖父や父の姿を見てきました。祖父や父と同様に、私も神職を目指そうと思い、神道文化学部への入学を決めました。

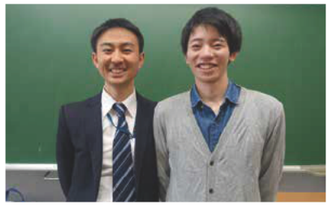
学部には、全国から神職を目指す者たちが集まってきます。自分と同じ社家の出身で、似通った環境を共有する多くの友人ができました。そんな仲間たちと出会えたのは、やはりこの学部ならではのことだと思います。

学部の授業では、神職に必要な知識や技能をしっかりと学ぶことができました。特に２年生から始まる神社実習では、実際の神明奉仕の何たるかを、肌で感じることができました。

４年次、いざ奉職を前にして、地元の神社に奉職するか、他県の神社に奉職するか、いささか迷いがありました。けれども、自分なりに考え抜き、都内の神社に奉職することに決めました。

ゆくゆくは地元に戻ることになります。地域の人たちに親しまれる神職を目指して、日々頑張っていきたいと思います。

石井 日向さん



教員メッセージ

石井 研士 教授

従来のやり方では神社の存続が難しい時代となりました。他方で、これまでは視野に入れられることのなかった新しい領域も、神職の才覚一つでできるようになったと思います。基本を外さずに、かといって旧弊に束縛されることなくチャレンジしてみてください。基礎的な知識や社会・文化の状況を理解し、向上心を失わずに勉強し続けてください。

遠藤 潤 教授

こんにちの神社は、これまでの伝統的な社会的役割に加えて、現代ならではの新しい課題に向き合うことも求められているのではないでしょうか。神道を深く学び、他の宗教を広く知ることが、新しい道を切り開く力につながると私は信じています。國學院大學神道文化学部は、そうした志を持つ学生が多く集う場所です。ぜひ一緒に学びましょう。

岡田 荘司 教授

本学入学から半世紀以上を超え、「平成」の終わりとともに定年を迎える。この間、文学部神道学科の専任教員として昭和50年代から平成の前半まで過ごし、その後、平成の後半は学部教員として、数多くの学生と接してきた。親子二代にわたって教え子である方々も少なくない。神道の学問は奥が深い。今後も卜部神道の当主が神職に与えた言葉「慎みて怠ることなかれ」を実践していくことに努めたい。

小野 和伸 准教授

神職にとって祭式は必須の教養であり、“心と形”の修得によって祭祀は厳修されます。明治40年の“青戸祭式”制定以降、國學院大學はその理念を繋いで来ました。「恩師の教えを守るのが弟子の務め」とは父小野和輝が心に掛けた言葉であり、師の教えを堅実に継承するからこそ伝統が守られることを説いたのです。後継者の育成に向けて全力を傾ける覚悟です。

加瀬 直弥 准教授

神道文化を学ぶと聞いて「祭りの作法を身につけるだけではないな」と思った皆さん。入学への道はすでに拓かれています。祭りの作法は当然として、その決め手となる祭神への気持ちや人々の試行錯誤の歴史、そして世界の宗教との比較など、学ぶことは数々あります。それらは、神社発展のアイデアを、さまざまに考えてもらうためなのです。

黒﨑 浩行 教授

「多様性」を標榜する渋谷という街は、世界を凝縮しているようなところがあります。その一角にあるキャンパスで神職を目指して切磋琢磨することは、先の見通せない将来をしっかりとした志をもって生きていく上で必ずよい経験になることと確信しております。教育を通じてそうした若者たちと向き合うことは大きな喜びです。

教員メッセージ

小林 宣彦 准教授

高齢化社会を迎えた日本社会は、これから、未知の領域に踏み込んでいきます。高齢化が社会にどのような影響を与えるのかは、人知の外にあります。それでも、「神社が社会に必要とされる施設」であり続けるため、神職は多くのことを学び、考えながら、社会に向き合う必要があると思います。神道文化学部は、その手伝いができる学部だと自負しております。

齊藤 智朗 教授

神社の神職になることは、先祖や先人たちが守り受け継いできた神道を中心とする日本の伝統文化を、今度は自分自身が護持し、発展させていかなければいけないことを意味します。神職になることへの意志と責任感・使命感を強くもって、國學院大學神道文化学部での「学び」にのぞみましょう。

阪本 是丸 教授

明治４年５月、全国の神社にも明治維新の理念である人材登用の大波が押し寄せてきました。お伊勢様から氏神様まで、全国一律に神職は「精撰補任」されることになったのです。神職を志す皆さんが社家出身であろうとなかろうと、神社の神職に相応しい有為な人材であれば登用する。神道文化学部はこの明治維新の理念を今に継承している学部なのです。

笹生 衛 教授

新たな研究を行っている場が大学であり、その研究成果にいち早く接することができる場所も大学です。日本文化の源泉の一つ、神道信仰に関して本学部では様々な切り口で、教員が研究・教育を進めています。日本社会が、大きく変化しつつある現在、教員とともに日本文化や神道信仰について深く考え、今後、我々が歩むべき道を探ってみませんか。

菅 浩二 教授

“Shinto Studies”、専門家ではない海外の方なら「何の研究？ああ、仏教の一派？」という反応。おおらかさと秩序、清浄な精神と実践、等の神道の特質は、もっと海外に知られても、もっと日本で深められても良いのです。当学部の役割はそこにあります。祖先と自らが持つ、歴史や文化の位置を世界の中に置いてみると、きっと色々なものが見えてきます。

西岡 和彦 教授

小生は神職養成学校と本学で教育を受けました。けだし養成学校の良さは、神社での実習を通じて多くの実用面が学べる実践型教育にあります。いっぽう本学の良さは、専門的な知識や思考を身につける教養型教育にあります。奉職後の数年間は実践型が喜ばれますが、それから先は本学の卒業生が、奉務神社でのご奉仕のみならず、神社界や地域における活動や指導といった分野にまで活躍の場を広げています。

藤本 頼生 准教授

親御さん方にとっては、國學院大學という東京のど真ん中にある大学へと進学させることには不安が尽きないかと存じます。しかしながら神道文化学部は、アットホームな一人ひとりの学生の顔の見える学部、教員との距離の近い学部です。全国から集まった志を同じくする学生同士が一生涯の仲間となり得るよう、教員として支援していきたいと思います。

ヘィヴンズ・ノルマン 教授

神職というものは、神社で「働く」のではなく、「奉仕」するとよくいわれる。次に聞くのは「だれを」（または何を）奉仕するか？氏神さまだけ？氏子だけ？日本人だけ？世界の四方から日本を訪れにくる人々？」あるいは、その奉仕の内容は？…東京オリンピックはもうすぐだ。その際、奉仕のあらゆる意味について考える機会が開けてくるでしょう。

星野 光樹 講師

神職を務めることは大変なことです。肇国以来の「祈り」の文化を担い、後世に伝えていかなければならないからです。神職の百年先、千年先の使命を考えれば、知識を広く求めてよく考え、師の教えを学んで泥むことなく、驕ることなく、怠ることなく、周囲を援け、ともに励み、以て社会に範を示すことが肝要です。今、この学び舎で、これらを知り、これらを実践できれば、神職ほど魅力的な職業があるでしょうか。

松本 久史 教授

神道を学ぶということは、この国の自然・風土、人々の日々の営みに強い関心を持つことと同じだと思います。皆さんも幅広い分野に興味を持って勉学にいそしんでください。神道文化学部はそれを受け入れるだけの包容力を持った多様な学びが可能です。私も近世を中心とした神道・国学の歴史を通じて、皆さんに神道を伝えていきたいと思います。

茂木 栄 教授

早いもので、國學院大學に専任教員として受け入れていただいてから、30年が経ちました。その間、専門の祭・儀礼・民俗調査研究ばかりでなく、映像制作などもさせていただきました。わが神道文化学部では、自由な発想で日本の伝統文化の研究を行ない、自由な表現媒体を使って発信することができます。卒業生、在校生、これから國學院大學に入学してくる若者たちと手を携えて、世界的にユニークな日本文化に貢献できるよう、共に学んでいこうではありませんか。

茂木 貞純 教授

他学部は首都圏の学生が大半を占める中、我が神道文化学部は全国から学生が集まってきます。社家の出身者はもちろんですが、神道を学ぶには國學院でという思いで志望してくるからでしょう。各地方の良き風を漂わせ、刺激的な交流が始まるのは、昔も今も変わらぬ風景です。そして学部二大行事となった観月祭や成人加冠式を、やがて協力して盛り立ててくれます。

学部長メッセージ

武田 秀章 教授

「高校まで、社家は学校で私一人だけでした。ところが神道文化学部には、全国から神職子弟が集まってきます。そうした仲間と共に学び、語り合い、時には悩み事も相談し合うことができました。入学して本当によかったと思っています…」ある在学生の言葉です。まことに大学はよき「出会いの場」。皆さん、この学部でかけがえのない仲間と出会いましょう。

神道文化学部の伝統行事

観月祭

皆で作り上げた観月祭

若林 なる美さん

昨年の観月祭は、私にとって最後の観月祭となりました。「浦安の舞」の舞人としてご奉仕させていただきました。

「浦安の舞」は美しく優美な舞ですが、練習は厳しく、苦しいときも度々ありました。けれども、本番の舞台で味わった高揚感や感動は、今でも忘れることができません。学部や学年を越えて皆で作り上げた観月祭の経験は、私にとって一生の宝物です。

熱心にご指導くださった先生方、一緒に頑張り助け合った舞のメンバー、そして観月祭を支えてくださった多くの方々に、深く感謝申し上げます。

成人加冠式

さまざまな人の手で作り上げられる式典

中村 京さん

本年の成人加冠式において、新成人代表として神殿で誓詞を奏上いたしました。厳粛な御神前での奏上は、一生の思い出となりました。

装束の着装は、教職員の方々や仲間の学生たちに行っていただきました。加冠の儀では、学生の加冠補助（＝介添え）のもと、諸先生方にお手づから加冠していただきました。神殿では学生が祭員を務め、祝賀の儀でも学生が雅楽や舞でお祝いしてくれました。

様々な方々からお祝いをしていただいたことに、とても感動いたしました。皆さまの暖かいご配慮に、また20年間育ててくれた両親に、心から感謝の念を伝えたいと思います。

平成31年度　推薦・特別選考、専攻科、別科入試日程

入試制度	出願期間（消印有効）	試験日	合格発表	入学手続期間（消印有効）
神道・宗教特別選考［Ⅰ期］ 「神社本庁包括下の神社」及び「神道系教団」の後継者を対象とした入試です。	9/19(水)～ 9/26(水)	1次：書類選考 2次：10/21(日)	1次：10/10(水) 2次：11/ 1 (木)	11/ 2 (金)～11/ 9 (金)
神職養成機関（普通課程）特別選考	9/19(水)～ 9/26(水)	10/21(日)	11/ 1 (木)	11/ 2 (金)～11/ 9 (金)
公募制自己推薦（AO型） 「神道文化学部でぜひとも神道文化・宗教文化を学びたい」という強い意欲を抱く志願者を選抜します。	9/26(水)～10/ 3 (水)	1次：書類選考 2次：11/11(日)	1次：10/19(金) 2次：11/21(水)	11/22(木)～11/29(木)
神道学専攻科 4年制大学を卒業した神職子女が、1年間で神職資格（明階検定合格、正階授与）取得を目指す課程です。	10/ 9 (火)～10/15(月)	11/25(日)	12/ 4 (火)	12/ 6 (木)～12/13(木)
神道・宗教特別選考［Ⅱ期］（夜間主） 「神社本庁包括下の神社」及び「神道系教団」の後継者を対象とした入試です。	2/ 4 (月)～ 2/ 8 (金)	1次：書類選考 2次：2/25(月)	1次：2/19(火) 2次：3/ 4 (月)	3/ 5 (火)～ 3/ 8 (金)
別科神道専修　Ⅰ類・Ⅱ類 高等学校の卒業者が、神職資格取得を目指す課程です。	2/ 4 (月)～ 2/ 8 (金)	2/25(月)	3/ 4 (月)	3/ 5 (火)～ 3/ 8 (金)

※出願資格など詳しい入試の情報については、國學院大學ホームページをご覧になるか、本学入学課（電話03-5466-0141）へお問い合わせください。志願される方はお早めに「入学試験要項」をご請求ください。

入試説明会
6/3(日)、8/4(土)、8/25(土)

神道・宗教特別選考を志望する方々へ

本学では、（1）神社本庁所属神社の神職、またその家系の子女で、継承者となる方々、もしくは、（2）神道系宗教団体の子女で、将来、後継者となる方々を対象にして、「神道・宗教特別選考」という入試制度を設けています。この入試に関する説明会を、渋谷キャンパスのオープンキャンパスで実施します。日程は、左記のとおりです。「神道・宗教特別選考」を希望される方は、ぜひご参加ください。